

海水の変化に関係

水俣の奇病 熊大、究明に本腰

意している。

なお熊本熊大理事長は二十八日同大藤崎台分院に入院加療中の十二人の患者を見舞い、現状を聞いたがそのあと次のように語った。

食しい漁民にとって魚介類を食うなどいふとは死活に関する

ことで重大な社会問題だ。一日も早く原因を究明しなければならぬ。現在大学に入院している人たちも生活の維持けのない人ばかりで大学の研究用患者の手算を回している位だ。地元側の強い協力後援が望ましい。

水俣市の奇病については、その後の研究で魚介類の中毒説が有力となり、台湾一帯の魚介類に赤信号が出されているが、地元漁民代表八人はこのほど熊大医学部を訪れ、生活糧の問題なので一日も早く原因を究明して欲しい、と陳情した。さういふ同学部では奇病研究資料費として文部省から二百五十万円の補助金がおりましたので近く析機械を買って、究明に本腰を入れることになったが、湾内の海水変化になんらかの関係があることは動かせませんと云った。

これまで同地方に発生した奇病患者は延べ五十四人。このうち三人は後したか十七人はすでに死亡、七人として視力や聴力が衰え、手足がこびれるなど病状の重くものもある。治療法もそのほとんどはビタミン療法ばかりだと言ふ。

今年に入ってからはまだ患者はひびきかき、三月頃には続発の可能性があるので魚介類を食うなといふ同学部では注